

市民がつくる  
市民が学ぶ  
市民が拓く  
生涯学習情報誌

# Stage

月刊ステージ・アップ

---

# up

'99  
**5**

月号【1日発行】

小誌「いまを話す」ゲストのご推薦を



いまを話す

日本初「野生動物ボランティアセンター」所長  
馬場 国敏 さん  
油まみれの水鳥救出体験 湾岸戦争  
自費でリハビリ施設造る

■ほんねインタビュー いまを話す 4

日本初の「野生動物ボランティアセンター」所長

馬場 国敏 さん

油まみれの水鳥救出体験 湾岸戦争  
自費でリハビリ施設造る

■はりきってます グループ紹介 10

絵本の世界樂しむ

アングスの会(川崎区)

20年間、布遊具や布絵本を作る

ぐるーぷ・もこもこ(麻生区)

●学習・文化情報／会員募集／読者の声 12

□ミニニュース／編集後記 裏表紙

新百合21ホール無料開放のご案内

◇表紙絵……東京湾アクアライン川崎口——村楢広義さん

(小誌は再生紙を使用しています)

## 「いまを話す」ゲストのご推薦を

### 「グループ紹介」の「出前、も…

「市民がつくる 市民が学ぶ 市民が拓く」がコンセプトの生涯学習情報誌「Stage Up」は、市民の方々に支えられ、9年目を迎えました。とくに「ほんねインタビュー いまを話す」と「はりきってます グループ紹介」は、回を重ねるごとに愛読者が増えています。

「いまを話す」ゲストの9割が読者からのご推薦で「ゲスト選考の的確さに敬服。話しに感動させられ、毎号楽しみ」との励ましをいただいています。「グループ紹介」は、スタッフがグループ活動の場に行き取材します。「生き生きとした活動が手にとるよう」「私たちのグループが掲載され、会員が増え活動に張りが出た」などの反響が寄せられています。今後も2つのコーナーの自薦他薦をお待ちしています。また「学習・文化情報」は、開催場所を公共施設や川崎市内に限定せず、市民(在勤者を含む)の多様な活動を支援しています。

ご推薦・ご投稿・ご意見は、電話952-5000(代)かFAX 952-1350のステージ・アップ編集チーム(取材などで留守の場合はご容赦下さい)。

あなたの声が生きたる  
ステージ・アップです

修了式も学び語り楽しむ場

かわさき市民アカデミー

# 修了式

## マイペー ス学習で 若い時の何倍も楽しめた

## 知的好奇心を触発される

わかる  
講義で

「第六回かわさき市民アカデミー修了式」（学長・高橋清市長）が三月中旬、中原区の「市生涯学習プラザ」であり、六十単位を取得した四十五人に、修了証書が篠原一・学長代行（東京大学名誉教授）から手渡された。修了生代表は「自分の中で納得できる学びができた」「高度な講義内容に驚き、分かりやすい話に感動した」と「生涯青春」を話した。



山崎宗治さん



篠原一・学長代行



鈴木恵美子さん

修了式は、会員や生涯学習関係者ら七十人が参加し、篠原学長代行は「年をとってから新しいことを始めるのはとても勇気がいる。皆さんはアカデミーで新しい学習に参加され、修了という一つの階段を上られた」と修了生の努力をたたえた。また、子供は親の背中を見て育つとのたとえを引用し、アカデミー会員は「隣の人の横顔を見て育つ」組織であることを強調し「生涯現役であるためには体も心も健康であることが一番」と述べ、アカデミーで得たことを生かし「新しいものに挑戦してほしい」とあいさつした。

「修了生のことば」として二人が思い出や教訓を話した。鈴木恵美子さん（九六年度、美術コース）は「若いときの学びとは違い自分の中で納得できる学びを味わい、若いときの何倍も楽しめた。それは無理をせずマイペー  
スで学習し、三年かけて修了することができたからだと思う」と明るい表情で話し「今後は自然観察員の資格が取れる講座を受講したい」といつそうの意欲をみせた。

山崎宗治さん（九七年度、科学コース）は、三十年前に土木建築設計事務所を開き、仕事に打ち込んできたという。仕事の参考になると思い「みどり学」を聴講したのがアカデミーとの出会いで「そのとき、高度な講義内容であったのに驚いた」と話す。

その後、入院生活を送り、健康を回復して科学コースの会員になった。「乗り物の科学」で、竹馬や自転車がどうして転ばないのかを力学的に説明され、科学はむずかしいと思っていたが、講師の分かりやすい話で理解が深まった」と知的好奇心が触発されたことを告白した。そして「何でも見よう、なんでも経験しよう、今まで無縁だったパソコンにも挑戦した。これからは生涯会員としてずっと受講したい」と話した。

## いまを話す

ゲスト

日本初の「野生動物ポラ  
ンティアセンター」所長

馬場 国敏 さん

Vol.74



——馬場さんは、一九七三年に  
中原区で動物病院を開業されてい  
ますが、お生まれは福岡県ですね。  
馬場さん お茶で有名な八女市  
で生まれました。田舎ですが、風  
光明媚なすばらしい環境で育ちま  
したから「汚いまち川崎」は好き  
ではなかったんです（苦笑）。と  
ころが、たまたま新城のまちを歩  
きましたら、活気があって気に入  
ったわけです。それ以来、四半世  
紀以上も川崎で生活していますか  
ら、立派な「川崎人」です。

——十数年前、川崎野生飼鳥診

## 油まみれの水鳥救出体験

湾岸  
戦争

## 自費でリハビリ施設造る

多摩川は川崎の母なる川。四季を通しさまざまな鳥が飛来する。羽ばたきや餌をついばむ姿は「生への賛歌」。この川は、生き物を母のように温かく包んでいるのか。多摩川から二・五キロ先の中原街道「下新城交差点」そばの「野生動物ポランティアセンター」では、傷ついた鳥やウサギ、タヌキなどがリハビリをしている。獣医の馬場国敏さん（50）が一年前、自費を投じて開設した。この日本初の施設は、湾岸戦争の際に重油まみれになった水鳥救出にかかわった馬場さんの心が刻まれている。欧米諸国のそれは、行政の手で東京ドーム並みの大きさ。日本の共生・国際貢献・命の貴さという言葉に川崎で魂を入りたい。聞き手は、かわさきFMの秋山雅子さん。

療愛護センターを開設され……。  
馬場さん ええ。僕は犬猫専門の獣医なんです。多摩川にいちばん近い獣医なんです。当時は景気が上昇りのころで、全国的に山は崩され、小さな沼は埋められ開発が進んで、いろいろな野生動物が多摩川に避難して来まして……。

——多摩川が自然に恵まれてい

るということですか。  
馬場さん いいえ、多摩川も自然に恵まれているわけではないんです。コンクリート護岸のため餌がないんですから、大変貧相ですよ。鳥たちが、そんな川で少ない餌を探そうとすれば、釣り人が捨てた釣り針を体にひっかけたりするんです。そういう小鳥や野鳥を子供たちが見つけて、帰り道にある僕の病院へ連れて来るようになったんです。

——そういう野鳥との出会いがあり、その後、タンカー事故の際は救援活動のため世界各国に足を運ばれたのです。湾岸戦争のときは、サウジアラビアへペルシャウを救出に行かれ、記憶に新しいところでは、ロシア船タンカー「ナホトカ号」の重油流出事故の際には、チームリーダーとして活

## スズメ、雑草も必要な食物 餌少なく危険な多摩川 消滅する 野生動物

重油まみれのベルシャウを洗浄する馬場さん  
(一九九一年 サウジアラビア 提供写真)



躍されたそうですね。

馬場さん ええ(にこやかに)。

——馬場さんのフィールドは多摩川から世界へと大きく広がって、一年前には、日本では初めての野生動物のリハビリ機能を持つ「野生動物ボランティアセンター」(川崎野生動物救護・自然環境教

育協会)を自費でお造りになったんですね。

馬場さん はい、そうです。

——見学して驚きましたのは、ここが中原街道の交差点の角地にあって、外からはお花屋さんかと思いましたが。でも、リハビリ施設として、十分な設備が整っている

のですね。

馬場さん 欧米には、野生動物の立派なりハビリ施設がたくさんあるんです。ここは、本当に小さな施設ですけど、設備は十分整っています。交差点のそばに野生動物ボランティアセンターといってもピンとこないかもしれませんが、町の中にも野生動物はたくさんいるんですよ。スズメ、カラス、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ……。このところ、チョウゲンボウというハヤブサも都会で生活し始めていますね。また、キジバトも川崎市内で繁殖しています。特に、水鳥たちは多摩川を中心にたくさんいますよ。

——身近に結構いるんですね。「動物リハビリセンター」ではなく「野生動物ボランティア……」との「命名」に、馬場さんのこだわりを感じるのですが。

馬場さん 「野生動物」としたのは、僕には人間を含めた地球上に存在するあらゆる動物のお医者さんが獣医だという思いがあるからです。

——獣医さんの仕事の範囲は広いのですね。ところで、ここに保護されている動物たちは、時機を

みて放すのですか。

馬場さん そうですね。小アホウドリが多摩川で保護され、ここで治療とりハビリをして先日、八丈島へ行き放鳥してきました。なかには「野生動物も自然の一部だから、自然には手をつけるな」という人達がいいます。それは素晴らしい考えで、僕もその考えは大事にしたいと思います。しかし、残念なことに、今の自然はほったらかしにしておいて、回復するような自然ではないんです。自然は、人間が保全し回復させなければならぬ状況にあります。

——「自然のまま」が、通用しないほど深刻な事態にあると。

馬場さん ええ。自然界は、食物連鎖のピラミッド型(生態的ピラミッド)で成り立っています。

環境庁は毎年、絶滅の危険性のある野生動物についての「レッドデータブック」を作成していますが、それに記載されているトキ、クマタカ、ツキノワグマなどの自然生活史を見ますと、その中の一つだけを大切にすればいいというものではないんです。どのような野生動物も、このピラミッド型の中で生きていますから、スズメも

## 進んだ日本人のボランティア意識

## 阪神大震災と重油流出事故で

餌となる自然の一部ですから、自然資源として大切なのです。人間も、僕たちの年齢になるとそろそろ枯れ木ですが、枯れ木も雑草も必要なんです（冗談を交え）。つまり、食物連鎖の中で不要なものはないということです。

——馬場さんの行動の原点はそこにあるんですね。そこで「野生動物ボランティアセンター」設立のきっかけになったロシア船ナホトカ号の重油流出事故のお話を聞かせください。

馬場さん 日本の、人に対する、社会に対する「ボランティア元年」は阪神大震災が起きた一九九五年

です。そして、野生動物や環境に対するボランティア元年がナホトカ号の事故があった九七年なんです。市民を交え活動するのは、これが初めてのことでした。

——馬場さんは「野生動物救護人の第一人者」といわれていますが、九五年から九七年にかけて、日本人のボランティア意識が国際水準に近づいてきて、その先頭に馬場さんがいらした感じですね。

馬場さん そう言っていたら、恐縮です。「野生動物救護人の第一人者」と言われるからには、きちっと責任のある仕事をしてこなければ、そういう評価はいただけないと思っています。日本では、野生動物救護のノウハウを知っている獣医は僕だけらしいのです。——それで、海の事故を人間が起こし、野生動物がひどい目に遭っている、馬場さんが行かれるわけですね。

馬場さん 僕自身、そういう一

報が入れば、行くのは当たり前と考えていますので、すぐ現地に飛び、ボランティアを受け入れる段取りなどをします。今後大切なのは、作業を手伝ってもらいながら、ボランティアの育成をする一方、獣医や県や市の行政の方々が、そのことを深く理解されて、市民に普及していただく必要があります。——特に日本は、エネルギーを輸入に依存していますので、他国



秋山雅子さん

——船の事故でも他人事ではないと。馬場さん その通りです。この

「野生動物ボランティアセンター」も、本来は官民一体でやるべきなんです。外国からもいろいろの方が訪ねて見えますが、設備は整っていないも規模の小ささに驚いています。個人の力には限界があります。外国には立派な施設がたくさ

## 馬場 国敏 さん

ばば・くにとし=1948年、福岡県生まれ。71年、麻布獣医科大卒。73年に中原区で馬場総合動物病院を、88年に川崎野生飼鳥診療愛護センターを。91年、湾岸戦争で環境庁派遣野生動物救出チーム団長。97年、日本海重油流出事故で水鳥救出指揮。98年4月、同区下新城に「野生動物ボランティアセンター（川崎野生動物救護・自然環境教育協会）」を。現在、市獣医師会理事など。共著に「重油汚染・明日のために―「ナホトカ」は日本を変えられるか」（海洋工学研究所出版部）。家族は妻、長男、長女。

んあり、行政がつくり運営は市民に任せています。

——かつての川崎は、大気汚染による公害都市で、多くの市民が苦しみました。川崎市のイメージが良くないのは、その負の遺産を引きずっているからです。馬場さんの実践的知識を生かしながら、行政が世界に誇れる野生動物リハビリセンターを建設すれば、計り知れないイメージアップになると思うのですが。

馬場さん 実は僕はいま、そのために頑張っているんです。地理的条件、アクセスを考えると川崎





自分で餌を食べることができないくちばしのないハト



リハビリプールの水鳥たち

がいいんです。諸外国のレスキュー(救助)センター、ネーチャーセンターは、東京ドームくらいの大きさで、一つ建設するのに五十億から六十億円かかります。

——そんなに建設費がかかるのですか(落胆の表情)。

馬場さん けれど、等々力緑地に造れば三億円です。

——どうしてですか。

馬場さん 建物はログハウスを三つ建てれば十分です。子供達のためのレクチャー(学習)ルーム、リハビリ(機能回復)棟と観察舎(サンクチュアリ)。等々力緑地は地の利がいいので、ボランティアの人が集まりやすい。それに羽田空港が近いので、どこかの離島で事故が起きても空輸してすぐに運ぶことができます。そして、すでにリハビリに使える等々力緑地公園の池があり、天然のリハビリ

——最適な場所なのですね。馬場さん そうなんです。日本は開発されつくしています。野生動物の種類、数は世界でもかなり少ないほうだと思います。ですから、これ以上減らしてはいけません、共存の手伝いをしなくてはならないんです。野生動物の数は多くありませんから、日本の本格的

なレスキューセンターは川崎の一角所で十分だと思います。

——なるほど。

馬場さん それだけではありません。野生動物リハビリセンターは、青少年の環境・情操教育や、「キレる現象」の解決の糸口としての実習の場になります。また、お年寄りのケア、ハンディキャップを持つ人々にもアニマルセラピー(動物介在療法)を通して、大きな役割を果たします。

——いのちの貴さについての学びの場になりそうですね。

馬場さん その通りです。自分たちは、動物と共存することで生きていることを知り、自然環境の仕組みや大切さを学習し、人間関係のあるべき姿を体得する場になります。つまり、センターに参加してリハビリの仕事を手伝う。頭だけの自然環境教育ではなく、体を動かす情操教育ができるのです。

——野生動物リハビリセンターの社会的役割は大きいですね。

馬場さん 子供たちに「動物を大切にしろ」と教えることは必要です。でも、人間も生き物です。十歳くらいまでに動物に対する残忍さが出せる環境を与えてや

# お寒い日本の野生動物救護 命の貴さは実物教育で

——はあ？。——  
——することも必要なんです。

馬場さん 小さい時に、たとえ  
ばカエルを道にたたきつけたり、  
引きちぎってみて、生命の限界と  
か貴さを知るんです。僕たちの世  
代は、遊びの中でそうした残忍な



同センターの重体のクイナに三人  
がかりで餌を与える(提供写真)

体験をしてきました。それは親が  
教えることではなく、勝手に子供  
が身につけることなんです。

——いまは、そういう機会がな  
いせいか、人の痛みがわからない、  
命の限界を越えた振る舞いが目立  
ちますね。

馬場さん 最近「おやし狩り」  
といって、人を殺めてしまします  
が、やったほうに殺すつもりなの  
いケースが多いようです。幼児の  
ころに、命の限界を体で覚えてい  
ませんから。そういう残忍な体験  
がなくても、ポランティアにきた  
子供たちが、傷ついた動物を一生  
懸命看護したにもかかわらず死ん  
でしまったとか、看護の際に押し  
え方がまずくて死んでしまったと  
か、そういうことを通して生命の  
限界を教えることが必要なんです。  
それが人間育成なんです。

——命の貴さを教科書で教えて  
も身につきませんか。

馬場さん ええ。この数年「ア



ニマルセラピー」(動物介在療法)  
が注目されています。心を病んで  
いる方とか、体が動かない人たち、  
アルツハイマーの方たちに刺激を  
与えることは大事なんです。でも  
大脳に刺激を加えるだけでは効果  
は薄いのです。体にも刺激を与え  
歩く、動くことがいいのです。

最近、動物を老人ホームや養  
護学校に連れていって、お年寄り  
とふれあいを持つことはしている  
ようです。これは受動的なことで、  
しないよりはしたほうがいいとい  
う程度です。でも、等々力に野生  
動物リハビリセンターを造ったら、  
そこに来ていただけです。自分か  
ら動くことで、アニマルセラピー  
の効果は何倍にも、何十倍にもな  
ると思います。

——実際に施設ができてからの  
管理運営はどうするのですか。

馬場さん 市の職員が三人いれ

ばいいと思っています。あとは全  
部ポランティアで運営できます。  
市民参加型ですね。でも、みんな  
が気まぐれで、もしうまくいかな  
ければ、縮小すればいいんです。  
市の職員三人で十分やっていけま  
す。事務職、営繕、それと管理兼  
所長の三人でいいと思います。第  
三セクター方式でやるのだけはだ  
めです。いいことありませんから。  
——海外ではどういう運営方法  
をとっているのでしょうか。

馬場さん 建物や維持費は国が  
負担し、運営はポランティアとい  
う形が多いようです。

——その場合、まったくの無償  
ポランティアなのですか。

馬場さん リーダーは職人にな  
って、他はポランティアです。

——平成不況で、財政が逼迫し  
行政のスリム化が至上命題といわ

## 秋山 雅子 さん

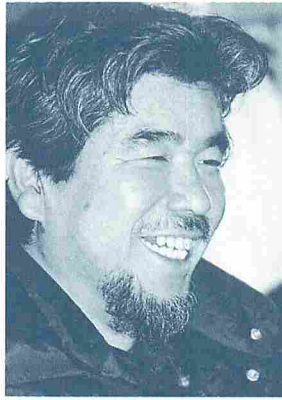
あきやま・まさこ=1962  
年、甲府市生まれ。短大卒業  
後、NHK甲府、テレビを経  
業、NHK甲府、FM Kを  
フリー。現在、FM K  
City (79.1)「かわ  
ニューフラッシュ」パ  
ニャー。FMサロンの  
さきFMコンサー  
ティ。多摩区在住。  
会も。



ほんねインタビュー

れ「やれるものだけやる」という形になりますよね。

馬場さん 「やれるもの」は、だれが決めるのですか。政策の優先順位は、市民がどれだけ必要としているかで決まるのではないのでしょうか。「野生動物リハビリセンター」を必要とする心”をどう形成するかにかかっていると思います。財政難でも「青少年が命の貴さが分からなくなってきたら」



題を放置しておけない」という考えに立てば、三億円の支出を惜しんでいいのでしょうか。

——話は分かりますが、たとえば、税金プラス企業からの出資という形をとったほうがより早く実現するのではないのでしょうか。

馬場さん いいですね。それは行政マンがどれだけ能力を発揮するかにかかってくると思います。僕はこれから川崎に住みたいと思って

いますし、川崎に子孫も増やしたい。また、川崎市政と仲良くしたいんです。ですから、川崎を住みやすいまちに、世界に通用する人間が育つまちにしたいと思うんです。これは行政と市民による文化事業なんです。僕の活動も、いまから五、六年が正念場です。

——「どうしても実現させたい」との馬場さんの熱意が伝わってきます。多数の市民の声にするため具体的に……。

馬場さん まず、啓発活動です。具体的には、現在六百人いる野生動物ボランティアセンターの会員をもっと増やすことです。

——会費はいくらですか。  
馬場さん 入会金が千円から三千円で、年会費は子供五百円、高校生以上の学生千円、大人は二千元です。会員は、不登校生徒や障害のある人、小学生から社会人、お年寄りまで幅広い市民が参加しています。センターは年中無休で



リハビリ施設は下新城交差点前に

市民に開放しています。行政マンに理解していただきたいと、勉強会も続けています。さらに、近所の新城小や子母口小などの児童に地域・環境学習もしています。

——授業の一環としてですか？  
馬場さん そうです。

——先生の意識が高いんですね。  
馬場さん まず、現状を知っていただく。環境の現実を把握されれば、みなさんの意識が高まると

信じています。一つの種が減びたら、その種を回復させることは無理なんです。私たち人間は、動物と共存する義務があるのです。他の種を減ぼす権利はないはずで、地球上に存続する生き物の中で、人間がいちばん頭がいいのなら、頭がいいなりに謙虚に行動しなくてはいけないと思うのです。

世紀を重ねるごとに、人間が傲慢になり、他の生き物を痛め付け、人類が減びる環境ホルモン問題の解決すら出来ない状況になっていますね。

馬場さん 僕が世の中を直接変えることはできませんが、自分のフィールドに関係する分野では、努力して影響を与えなくてはならないと思っています。

## 川崎から「生き物を大切に する街」 等々力緑地に施設を

題字は高橋清・川崎市長  
構成／富樫 恭子  
文責／田中 圀  
カメラ／山本 綾子

〈野生動物ボランティアセンターのご案内〉川崎市中原区下新城二の二の二八。JR武蔵中原駅下車、徒歩十分。☎(777)8243。年中無休10～19時(見学は17時まで)。

## はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 生き生きと。



# 聞く心地よさ実感 広がる笑いと感動

子どもに絵本の世界を心から楽しんでもらおう。「アングスの会」  
 熊本明美代表(36)の八人は、  
 毎月第二水曜の午後、川崎図書館

で、絵本の読み聞かせや子どもが  
 好きになる本の紹介をしている。  
 この日はプラザ田島で、母親に  
 子どもが絵本を読んでもらって

## 絵本の世界楽しむ

アングスの会(川崎区)

る時の心地よさや、よい本の見つけ方について知ってもらおうと、同会が連続講座を企画した。教育文化会館の委託成人学級。

「まだ、本を自分で選べない幼児にどんな本を読んであげたらいいか」という受講者に、講師の向井惇子さんが、クリームの色調でパリの風景が描かれた「げんきなマドレーヌ」をリズムミカルに読む。

元気で活発な「おチビさん」のマドレーヌが盲腸で入院。おなかの傷を見舞いに来た友だちに自慢する。ベッドの回りにはお菓子もおもちゃもいっぱい。入院生活がうらやましい友だちは、その夜「わーわー、もうちょうをきつて、ちょうだいよー」とうそ泣き。ユーモアあふれる話に、聞き手は思わずニツコリ。「傷を見せるマドレーヌの誇らしそうな顔」「子どもって、こういうところあるわ」と指方明恵さん(49)がうなづく。

この後、幼稚園児の女の子が、入院する妹に自分の宝物の人形をあげたり、嵐の夜、一人で留守番することになる話を紹介。向井さんは「この本が本当の子どもの姿? 親の期待ではないの? 生き生きとした子どもの気持ちや夢、行動が

描かれ、ワクワクする本を子どもと一緒に楽しんで」と語りかける。絵を見ながら耳から話が入ると、絵本の世界に集中でき、空想が広がる。心から笑ったり感動できる。子どもが本の内容を全部わからなくても、信用できる世界で遊ぶ喜びを実感することが大事で、本物を見分ける力にもつながる。

同会は二年前、教育文化会館の委託成人学級「絵本の楽しみ方セミナー」受講者有志で発足。「アングスとあひる」の好奇心盛んなアングスに「自分の子どもがそっくり」と共感したのが名の由来だ。熊本代表は「恩返しのためにもりて企画しました。お母さんにじっくり味わってもらいたかったので、保育付きにこだわりました」。

牧野聡美さん(37)は「なんども『絵本を読んで』という気持ちがあわかりました。良い本は心がポツと温まります」と元気をもらおう。石井美紀子さん(52)は「本物を多く知ると、変な本にあうと自然とわかるようになるんです」。

連絡は ☎ FAX (322) 2878 の同代表。

文 / 小誌・井上徳子  
 (カメラ / 小誌・菅原純子)

はりきってます グループ紹介

20年間、布遊具や布絵本を作る

おもちゃ

ぐるーぷ・もこもこ(麻生区)

柔らかな布で絵本や遊具を作る「ぐるーぷ・もこもこ」の野口光世代表(64)ら五十八人は、夢と人！。第二・四月曜の十時から、福祉パルあさおの定例会には、二十〜七十代の女性が集う。ぬくもりのある遊具を作り、養護施設の子供らに贈り続けている。

この日は、翌月の作品展の準備と市内の養護学校に贈るおもちゃづくり。

布絵本「おおきくなったらなんになりたい」のグループでは、フェルトで作った色とりどりの服を作る。コックさんや看護婦さん、サッカー選手、お花屋さん、宇宙飛行士など子供たちが一度は夢見る職業の制服が並ぶ。それぞれの台布は、たて三〇センチ、横二〇センチで、その真ん中に、ポケットが付いていて、そこに子供があげられる制服を縫い付ける。実は、そのポケットが子供たちの夢をはぐくむ秘密の場所である。

そして、表紙についている人形をコックさんや花屋さんの制服があるポケットにスルスルと入れると、あくら不思議、お人形は看護

柔らかな肌ざわり  
子供の心もなごむ



婦さんになったり、花屋さんになったり……。このように布絵本はさまざまに仕掛けができ、子供の遊びの世界を広げる。

会員たちは「手の部分を先に縫った方がいい?」「糸の色は薄いほうが……」と話し合い、きれいな仕上がりを願う。

直径一ミリのビーズを服につけて、花をかたどったフェルトの中

心部にステッチするなど、会員は自在に針を運び、手際良くこなす。同会の発足は二十年前。出版社主催の布絵本展に野口代表が友人と出品したことがきっかけ。オリジナル遊具は百八十種。夏には六冊目の作品集が出版される。

また、手作りおもちゃを使って遊ぶ「プレイルーム」を週一回、北部地域療育センターで開き、障害児と交流している。人気のおもちゃは「切り離せるケーキ」「おべんとう」「魚つり」など。

同センター保母、岩原美加子さんは「毎回、楽しみです。アイデアと工夫がすごい」と感心する。

魚本陽子さん(51)は「一緒に遊ぶ子供たちの喜ぶ笑顔が、作っている私たちの励みです」。

根本とめさん(72)は「みんなで力を合わせ、大作を仕上げた時の喜びは大きいです」と笑顔。

野口代表は「プレイルームでは遊具の貸し出しも始めました。活動をさらに充実させ、長く続けていきたい」と話す。

連絡は ☎ FAX 042 (724) 0759 の同代表。

文 / 小誌・菅原純子  
カメラ / 小誌・井上徳子

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 生き生きと

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

①わくわく実験ショール  
読み取り技術②ガリレオ  
工房科学実験教室◆東芝科  
学館」①は5月8日(土)。バ  
ーコード、人間の声・顔を  
読み取る仕組みを解説。対  
象は小学生②は5月22日(土)。  
テーマは「磁石とモーター  
の不思議」。対象は小中学  
生。いずれも10時と13時半  
から。無料。定員先着各①  
250人②50人。申し込み  
は☎(549)2200の  
同館。川崎駅からバス。

「パッパ・フルートの音  
楽とその演奏法◆昭和音楽  
芸術学院」5月15〜29日の  
毎週土曜15時から、全3回。  
「バルティータ イ短調B  
WV・1013」他4曲に  
ついて、異なる版の楽譜を  
用い、現代フルート、パッ  
ハの時代の木製フルート・  
トラヴェルソンの実演をしな  
がら解説。講師は有田正広  
・昭和音楽大教授。1回2千

円、3回通し5千円。定員  
は先着各180人。申し込  
みは☎(953)1230  
の同大生涯学習センター。  
新百合ヶ丘駅前。

「講習会①春の樹木ウオ  
ツチング②ハーブの楽しみ  
方③病害虫の防ぎ方◆市緑  
化センター」①は5月26日  
(水)。無料②は6月9日(水)。  
教材費千円③は6月16日(水)。  
無料。いずれも13時半から。  
定員各30人(抽選)。申し  
込みは①5月15日(土)②29日  
(土)③6月4日(金)までに往復  
はがき(1人1枚)に講習  
会名、住所、氏名、☎を記  
して214-0002-1多摩  
区宿河原6の14の1、同館。  
☎(911)2177。

「公開講座◆玉川大学」  
5月から始まる講座の受講  
者を募集中。生き物ウオツ  
チングマ森を歩くマガーデン  
ニング入門マフランス17世  
紀のサロンと女性たちマ油  
絵入門マファイバーワーク  
布を創るマ屋外のスケッチ  
入門マボタニカルアート植

市外局番のないものは044

物画入門マメタルデザイン  
マスナップ写真の撮り方マ  
宗家に学ぶ煎茶マ短歌入門  
マやさしい俳句入門マ書に  
親しむマ書道マ漢字マかな  
に親しむマ中国語入門マス  
ペイン語入門マ旅行に役立  
つ英語マ英文雑誌を読んで  
好きになるアメリカマポピ  
ュラーソングをあなたにマ  
3人で学ぶ英会話マTOE  
FLの英語マTOEICの  
英語マ児童生徒指導講座マ  
学級を創る。受講料は1万  
〜9万円。定員3〜50人。  
問い合わせは☎042(7  
39)8895の同大継続  
学習センター。玉川学園前  
駅下車。

「ニューカップルセミナ  
ー」パパも主役の子育て◆  
麻生市民館」6月19日〜7  
月17日の毎週土曜10時から、  
全5回。沐浴、おむつ換え  
を実習。講師は安藤一人・  
都母子保健サービスセンタ  
ー医師。対象は初めて親に  
なる男女。無料。定員先着  
20組。申し込みは5月26日

「国際語エスペラント入  
門講座◆市国際交流センタ  
ー」5月21日〜7月9日の  
毎週金曜19時半から、全8  
回。基礎から自己紹介、最  
低限の日常のやり取りがで  
きるまでをゲームを取り入  
れ、楽しく学ぶ。教材費込  
み4千円。申し込みは18時  
以降に☎(533)197  
4の北川さん。川崎エスベ  
ラント会主催。

「花と語り心を癒す◆登  
戸ドレスメーカー学院」5  
月10〜24日の毎週月曜、全  
3回。時間は17日10時半か  
ら、他は19時から。ハーブ  
と小花のアレンジ。花材費  
のみ1回千5百円。定員先  
着各15人。申し込みは午前  
中に☎(911)2221  
の同院。向ヶ丘遊園駅下車。

「泉立座間谷戸山公園で  
初夏を探そう◆同公園」5  
月19日(水)10時、座間駅集合。  
斎藤博・かわさき市民アカ  
デミー講師の話聞きなが

ら、初夏の自然の美しさを  
楽しむ。参加費3百円。定  
員30人。小雨決行。申し込  
みは☎(954)1862  
の酒井さん。多摩区の緑と  
水を考える会主催。

「公開講座」土曜上映会  
◆日本映画学校」5月8日  
〜7月17日の毎週土曜10時  
から。同校一年の授業を聴  
講。授業内容は、映画観賞  
と講演。作品は「20世紀の  
映像は何を残したか」をテ  
ーマにした「水の中の八月」  
「につぼん昆虫記」ほか。

講師は今村昌平・同校理事  
長ほか。無料。問い合わせ  
は☎(951)2511の  
同校・同上映会係。新百合  
ヶ丘駅前。

「テスト教室」知ろう！  
防ごう！食中毒◆市消費者  
行政センター商品テスト室  
ほか」5月19日(水)マ28日(金)  
10時から。ゆで玉子、ハン  
バーグの加熱時間と温度を  
調べ、家庭でできる衛生管  
理を考える。無料。定員先  
着10〜20人。会場は19日は

学習・文化情報

学習・文化情報

きいてみたい音楽がある

同室、28日は多摩保健所。申し込みは5月6日(木)9時から☎(200) 2263の同センター。

ステージ



「混声合唱団コール04 4定期演奏会Ⅱ写真上◆高津市民館」5月29日(土)18時開演。世界の名曲集や池辺晋一郎「六つの子守歌」ほか。指揮・門馬啓一。ピアノ・西原のぞみ。入場無料。問い合わせは☎(854)

「手話ボランティア入門講習会◆市中部身体障害者福祉会館」5月21日～6月25日の毎週金曜10時から、



0760の杉村さん。  
「奥平哲也マリンバリサイタルⅡ写真中◆糀ホール」5月29日(土)14時開演。「G線上のアリア」「美しき青きドナウ」ほか名曲を演奏。ピアノ・大形友希子。全自由席2千円。問い合わせは☎(812) 6090。満ノ口駅下車。  
「聖マリアンナ医科大学

全6回。教材費のみ300円。定員40人(抽選)。申し込みは5月11日(火)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、



管弦楽団定期演奏会Ⅱ写真下◆麻生文化センター」5月15日(土)18時半開演。ベートーベン「交響曲『運命』、チャイコフスキー「バイオリン協奏曲」他。指揮・岩村力。無料。問い合わせは☎(977) 8111内線3113の同団事務局。  
「ランチャイムコンサート」テンホールズ・ハーモ

☎を記して21110006 8中原区小杉御殿町2の114の1、同館。☎(733) 9675。

スポーツ

ニカの不思議なメロデー  
◆市役所第3庁舎ロビー」5月19日(火)12時15分から。「ダーボーイ」「峠のわが家」他。ハーモニカ・猪浦教行、ピアノ・原田達也、パーカッション・志水豪。無料。問い合わせ☎(222) 8821の市文化財団。

「武道教室①剣道②少林寺拳法③なぎなた④柔道⑤合気道◆石川記念武道館」①は5月18日～7月8日の毎週火・木曜17時から、全16回②は5月20日～7月8日の毎週木曜18時から、全8回③5月22日～7月10日の毎週土曜15時から、全8回④5月18日～6月3日の毎週火・木・土曜18時から、全8回⑤は5月22日～7月10日の毎週土曜16時半から、全8回。対象は小学生以上。1回大人100円、子供50円。

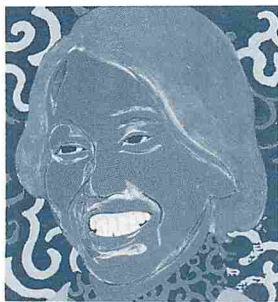
定員20～30人。申し込みは5月9日(日)10時に来館。☎(544) 04993。  
「①トレニング講習会②健康体力相談◆幸スポートセンター」①は毎月第1土曜16時半から。対象は中学生以上の初心者。定員先着20人②は毎月第2～4土曜16時半から。運動生理学者らが指導。対象は運動を始めた人、成人病、リハビリについて相談したい人。定員先着各3人。いずれも大人120円、学生60円。申し込みは☎(555) 3011の同館。

ギャラリー

「スナック喫茶琴」5月1日(土)～22日(土)、石渡旭の水彩画マ5月24日(月)から、磯野良吉のギリシャの写真。☎(544) 0507。鹿島田駅下車。  
「ギャラリー幸」5月1日(土)から、常設展。油彩、水彩画他。☎(555) 8181。川崎駅西口下車。「ギャラリーぱれっと」5月10日(月)～31日(月)「今井

学習・文化情報

魅力的なイベントがある



「中村正義の美術館」6月13日(日)まで、著名人の肖像画の「20世紀の顔・展」。「杉村春子像」Ⅱ写真Ⅱ他40点。一般500円、学生300円。☎(953)4936の同館。読売ランド前駅からバス。



「ピエロプラステ展」。写真は「ピエロプレート」。☎(233)8283。川崎駅東口下車。

「会館とどろき」5月7日(金)～19日(水)、退職教師の「六台会展」。日本画、パステル画他マ5月20日(休)～6月7日(月)、趣味の会「写真展」。☎(733)3333。

「ギャラリー順子」5月19日(水)～23日(日)。「手づくり仲間のグループ展」。着物のほぎれで作った小物、手織りの洋服など展示。☎(934)3010。登戸



「市民ミュージアム」6月6日(日)まで「芸術都市へ・かわさき」。花立年夫「向ヶ丘の秋」Ⅱ写真Ⅱ▽岡本太郎「赤」▽岡信孝「淡海の朝」他。一般500円、小・大学生200円。☎(754)4500。

「99かわさき市民「第九」コンサート合唱団員募集」同コンサートは12月12日(日)に市教育文化会館で行う。練習は8月27日～11月26日の毎金曜18時半、中原市民館他。高校生以上、家族会員は小学生以上も。参加費一般1万3千円、高校生8千円、小・中生5千円。楽譜、練習力セット実費。定員200人(抽選)。申し込みは7月21日(水)までにはがきに住所、氏名、身長、年齢、☎、歌うパート、第九経験と発音練習希望の有無を記して210100007川崎区駅前本町12の1タワーパーク3階、市文化財団、同コンサート実行委。詳細

「アートホール新町」5月1日(土)～15日(土)、瀬川裕幸の絵画「新しいマチエール」▽5月16日(日)～6月15日(火)、写真展「信濃の春」。リバーカレントの会写真部。☎(344)6444。川崎新町駅下車。



「①ダンスパーティー②社交ダンス特別講習会◆川崎市民プラザ」①は6月12日(土)18時半。150人。前売り千800円。②は6月12日(土)13時。ワルツ、ルンバの基本と応用。2千500円。初・中級者男女各25人。先着順。申し込みは①5月1



は☎(222)8821。「外国人のためのすみ絵講習会Ⅱ写真(前回)◆高津市民館」5月29日(土)13時。無料。道具の貸し出しあり。事前に申し込み。問い合わせは☎(852)3999の久徳さん。川崎インターナショナルすみ絵サークル主催。

「マリエンシネマクラブ◆川崎マリエン」5月16日(日)14時。「ディーブインパクト」上映(字幕スーパー版)。無料。当日先着300人。問い合わせは☎(287)6009の川崎港振興協会。

「将棋大会◆川崎市民プラザ」6月6日(日)9時受け付け。棋力別に分かれ総平手個人戦。プロ棋手の指導対局あり。200人(抽選)。参加費は中学生以下500円。大人千円。棋力はAは3段以上▽Bは初～2段▽Cは1～3級▽Dは4級以下。申し込みは5月15日(土)必着で、往復はがきに住所、氏名、年齢、棋力、☎を記して21310014高津区新作1の19の1、同プラザ同大会係。☎(888)3131。

日(土)から②5月15日(土)からプラザフロントへ直接。問い合わせは☎(888)3131。

「①星を見るタベ②天体写真撮影会③生田緑地観覧会◆市青少年科学館」①は5月15日(土)19時半、火星、

や見学会、ごみの実態調査などの活動をしてきた。

同冊子はA4判142ページ。冊子希望者は、冊子代(一部500円)と送料の計8100円分の切手を同封、麻生区上麻生2の5の7、☎・FAX(955)2533の同代表まで(S)。

### 重油流出汚染の教訓 自然と寄り添う心を

新春号「いまを話す」のゲスト、佐尾和子さんがこのほど「重油汚染・明日のために―「ナホトカ」は日本を変えられるか」(海洋工学研究所出版部・共著)を刊行した。同書は97年1月、日本海で起きたナホトカ号の重油流出事故を追跡取材し、重油汚染の全容を明らかにした。

「重油と闘つ」の章は、重油回収作業をしたボランティアの実情を、「拡散する重油被害」の章では、海洋生物への影響や水鳥の救助のようすが生々しく詳細に記されている。エピソードで、佐尾さんは「私たち一人一人が自然

と寄り添う『心もつ人』として力をつけた時、日本の自然は、そして世界の自然はよみがえるであろう」と結んでいる。

A5判464ページ、3千円。問い合わせは☎03(3207)7727の海洋工学研究所出版部(S)。

### 布のぬくもり感じ 遊べる「作品展」

「ぐるーぷ・もこもこ」(野口光世代表) 11ページに関連記事IIが、20周年を記念し3月中旬、麻生市民ギャラリーで作品展。5日間で千5百人の市民が訪れた。展示品は布絵本、おもちゃ、タペストリー(壁掛け)など130点。日本の昔話「ねずみのよめいり」はアコーディオンタイプの布絵本。動物のしっぽを探し本「だれのしっぽ?」。軍手利用の「家族人形」。どれも布ならではのぬくもりが感じられる。会場は、展示してあるおもちゃで遊ぶ子供やフェルト製包丁で野菜切りに夢中の女の子などの熱気いっぱい(S)。

## ハングリー精神と 情報過疎と人間ごみ

### 編集後記

今号の「いまを話す」のゲスト、馬場国敏さんにお会いしたときの私の第一印象は「久し振りに目が輝いた精神な男に会えた」だった▼話を聞いているうち「この人には、ハングリー精神がある」と思った▼いまの日本は飽食・放漫・怠慢がはびこる▼それと無縁な人は、人権感覚、国際感覚も抜群▼さて、四月の統一地方選▼「選挙は、地盤・看板・鞆がモノをいう」が崩れた▼地盤は、地域社会が崩壊し会社や団体に代わったが、それも利益があればこそその話▼看板は、公約をホゴにする政党が多く、不信が顕著▼「〇〇出身」とか「〇〇派」が看板の候補も▼神通力があるのは鞆⇨力ネだけ▼県・市議選で有権者が困ったのは、候補者についての情報不足▼地方分権推進法案が近く国会に提出され、国と

上下関係にあったのが対等な関係になる。地方分権元年▼この選挙がもつ意味は大きく、マスコミは「有権者の賢明な目に期待したい」▼だが、投票する際の公平で中立で客観的な物差しがなく、各候補者の自己PRと他陣営の批判だけ▼そのうえ、そのPRが自分の名前と大きな顔、スロウガンの羅列のものも▼公選法を改正し、マスメディアや候補者の「情報提供は原則自由」にして「告示後、候補者名入りビラが消える怪」をなくすべきだ▼身近な選挙が情報過疎なんて笑える▼タイヤメーカーの元社員が、リストラに抗議し割腹自殺した事件は「社員は社の宝」ではなく「社員は社長の私物」▼社は「管理職の早期退職は強制でない」▼だが、退職制度の内容を電子メールで知らせた事実が社員を「ごみ扱い」(遺書)した証拠▼トップと茶坊主どもが、自らに経営不振の責任を科し懲戒解雇になっていけば、こんな悲劇は起こらない(田)。

## 市内で活動の文化団体にホールを無料開放

(財)川崎市生涯学習振興事業団は、おもに川崎市内で活動する文化団体・グループに、新百合21ビルの「トゥエンティワンホール」(多目的、小田急新百合ヶ丘駅徒歩2分)とその付帯設備を無料で開放・貸し出す支援をします。ジャンルは、音楽、舞踏(ダンス)、演劇、映像などの文化・芸術です。

◆貸し出し期間 2000年2月 3団体

◆申し込み 5月31日月までに☎(733)6626の当事業団学習事業室

(中原区今井南町514の1)

### 発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団  
電話044(955)5000代

〒215-0004 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル  
FAX 044(955)1350 編集人・田中

電話044(955)5000代

学習・文化情報

楽しくつどうグループがある

ブレゼベ星団を▽22日(出)19時半。月、金星を。曇り、雨はプラネタリウム②は6月20日(日)19時。月齢7日の月を。曇り、雨中止。対象は小学5年以上(小学生は要保護者)。先着14人。持参品あり③は5月2日(日)は植物▽9日(日)は野鳥▽16日(日)は昆虫▽23日(日)は地質▽30日(日)はコケを。野鳥観察のみ雨天中止。9時50分同館集合。いずれも無料。申し込みは①③当日直接②は5月19日(水)から☎(922)47311の同館。

「かわさき市民アンデパンダン展作品募集◆アートガーデンかわさき」開催は7月6日(火)〜7月11日(日)。部門は絵画(日本画・洋画・版画)▽写真▽書道。1部門2点まで。応募資格は市内在住・在勤・在学の15歳以上。料金は1部門2千円。要項は区役所・市民館などで配布。申し込みは5月31日(月)までにテ21010007川崎区駅前本町12の1タワーリパーク3階、市文化財団同係。☎(22)88211。

「川崎子ども・夢・共和国委員募集」子どもたちによる「まち」づくりをめざす。月1回、高津市民館などで、話し合いや調査、ボランティア活動をする。対象は市内在住・在学の小学4〜中学3年。先着150人。申し込みは5月10日(月)まで☎(200)3309の市教委生涯学習推進課。「講演会」アフリカに森と学校を◆市生涯学習振興事業団新百合21ビル」5月10日(月)13時半。アフリカ28カ国を旅したフリーライターの新妻香織さんの講演とスライド上映。NGO支援の絵本を制作する葉祥明の原画も展示。無料。当日直接。問い合わせは☎(965)2761の岡本さん。「ふれあいバザー◆特別養護老人ホーム緑陽苑」6月13日(日)10時〜15時。雨天決行。衣類、日用品、書籍の販売▽焼きそば、焼き鳥などの模擬店▽子供の広場。献品の受け付けは6月6日(日)まで。新品同様の物を。問い合わせは☎(988)5010。栗平駅下車。

会員募集

●合気道・幸優気会《曾根秀幸代表》一人ひとりの力に合わせ、楽しみながら心身ともリフレッシュしています。けいこは、毎週土曜16時から、石川記念武道館で。入会金500円、月会費は大人2千円、学生無料。連絡は☎(522)8995の佐藤(FAXなし)。

●岡上デコパージュ研究会《草地鈴子代表》紙のプリントを転写する技法で、すてきなインテリア小物を作ってみませんか。毎月第1、3木曜10時から、岡上分館でツールペイントなどを学んでいます。一日体験も。月会費千500円、運営費500円。連絡は☎(954)8970の城戸(FAXなし)。

読者の声

喜びや楽しみ、苦しみ  
みんなで分かち合って  
中原区、橋田寛治さん

過日はご多用のなかを私ども気寿会の取材に出張され、ありがとございまして、古くから言われていることわざに「喜びや楽しみは二人で分かち合えば二倍になり、苦しみや悲しみは二人で分かち合えば半分になる」。これを会員みんなで分け合っていきたいと思えます。

御誌をきっかけに  
出合いの輪広がる

多摩区、福島裕子さん

3月号に私の拙い書評を掲載していただき、ありがとございました。いろいろな方から「読みましたよ」と声をかけていただきうれしかったです。本の著者である青木悦さんにもお知らせしたところ「短い文章の中に、私の言いたかったところをギュッとおさえて書評してくださってうれしいです」とのお便りをいただきました。「ステージ・アップ」がきっかけとなって輪が広がっていくようです。

ミニニュース

また、私にとって川崎に引越してきてから出会った大切なものの一つです。

「ごみ連が、ごみ削減の「市民プラン」冊子に  
「川崎・ごみを考える市民連絡会」(飯田和子代表)は3月中旬、「川崎発」ごみを出さない燃やさない市民プラン」をまとめた。

プランでは、家庭ごみの約3割を占める生ごみをどう減らすか、家庭でできる生ごみのリサイクルの実践例を紹介している。また、プラスチック、紙、布などのリサイクルの現状と問題点・課題を示し「市民へ」「事業者へ」「市へ」提言している。また、世代をこえた環境教育が重要との考えから、環境問題全般の学習や情報の受発信、環境リダー育成の機能を備えた「環境学習センター」の設立を提案している。

同会は、ごみを減らし資源循環型社会を実現するため、1992年から学習会